



大東建託株式会社

2026 年 3 月期第 2 四半期 決算説明会

2025 年 10 月 31 日

イベント概要

[企業名] 大東建託株式会社

[企業 ID] 1878

[イベント言語] JPN

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2026 年 3 月期第 2 四半期 決算説明会

[決算期] 2026 年度 第 2 四半期

[日程] 2025 年 10 月 31 日

[時間] 15:30 – 17:00

[開催場所] インターネット配信

[出席人数] 80 名

[登壇者] 2 名

代表取締役 社長執行役員 CEO

竹内 啓（以下、竹内）

取締役 上席執行役員 管理本部長 CFO

岡本 司（以下、岡本）

登壇

司会：定刻となりましたので、大東建託株式会社、2026 年 3 月期、第 2 四半期決算説明会を始めさせていただきます。

本日の決算説明会の様子は、リモートでも配信させていただいております。後日ホームページへ掲載いたしますので、聞き取りにくい内容があれば、そちらをご確認ください。

本日の予定ですが、取締役上席執行役員管理本部長 CFO の岡本より、2026 年 3 月期第 2 四半期の決算概要をご説明した後、主要指標の実績以降、代表取締役社長執行役員 CEO の竹内よりご説明いたします。

その後、質疑応答に入らせていただきます。質問の受け付け方法は、質疑応答に入る際にご説明いたします。なお、終了は 16 時 30 分を予定しております。

それでは、早速始めさせていただきます。岡本さん、よろしくお願いいたします。

岡本：皆さん、こんにちは。本日は、ご多用のところご参加賜りまして、ありがとうございます。私のほうから、業績のほうの説明をさせていただきます。なお、特に断りのない限り、連結ベースでご説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

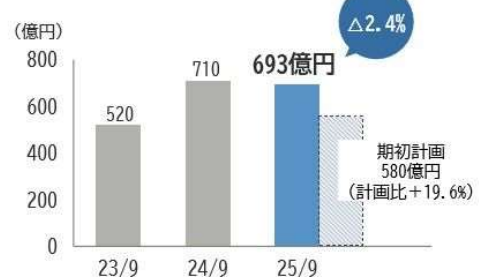
損益（連結P L）

4

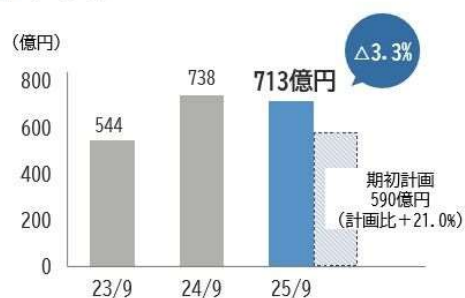
■ 売上高



■ 営業利益



■ 経常利益



■ 親会社株主に帰属する中間純利益



DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

4 ページをご覧ください。当期の損益の状況について、ご説明いたします。

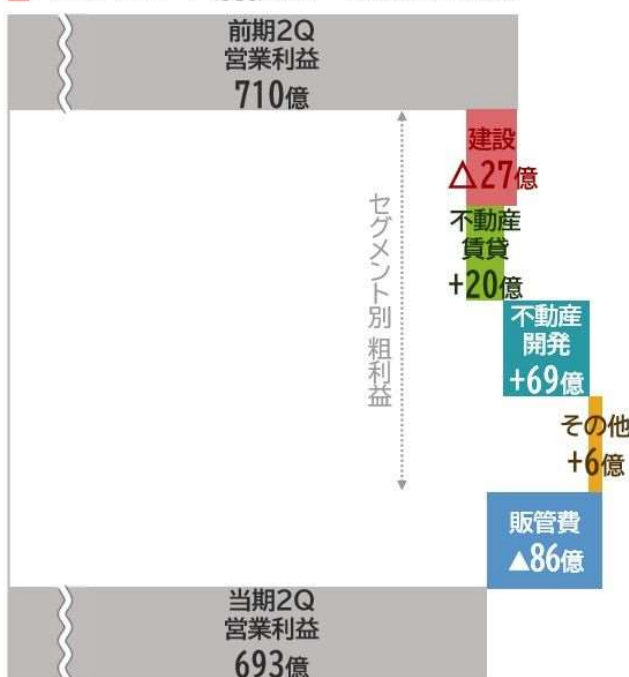
売上高が前期比 5.8%増加の 9,595 億円、営業利益が前期比 2.4%減少の 693 億円、中間純利益が前期比 2.4%減少の 498 億円となりました。

増収減益となりましたが、利益につきましては、期初計画を 10%以上、上回る結果となりました。詳しくは後ほどセグメント別にご説明をいたします。

損益（営業利益増減要因）〈前期比〉

5

■ セグメント別損益（前期比:増減）



DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

■ 主な増減要因 〈前期比△16億円〉

建設 △27億	・完成工事高 (2,673億円→2,640億円)	△8.4億円
	・総利益率 (25.5%→24.8%)	△19.0億円
不動産賃貸 +20億	・一括借上事業	+0.2億円
	・家賃保証事業	+3.3億円
	・本社ビル賃貸事業	+2.5億円
	・その他 (管理関連事業、仲介関連等)	+14.8億円
不動産開発 +69億	・投資マンション事業	△3.4億円
	・収益不動産事業 (買取再販・開発販売)	+48.1億円
	・アスコット社連結影響	+24.8億円
その他 +6億	・ガス供給事業	+4.7億円
	・介護・保育事業	+1.9億円
販管費 ▲86億	・人件費 (パースアップ、従業員株式付与)	△26.3億円
	・情報処理費・広告宣伝費	△6.2億円
	・アスコット社	△20.1億円
	・その他経費 (控除不能消費税、減価償却費等)	△31.9億円

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

5 ページをご覧ください。まずは前期との比較です。

当期の営業利益は 693 億円となり、前年同期の 710 億円から 17 億円の減益となりました。要因別にご説明いたします。

まず建設事業ですが、完成工事高の減少に加え、総利益率の低下により、27 億円の総利益の減少となりました。

次に不動産賃貸事業では、管理戸数の増加に加え、入居率を前期並みに維持できたことなどから、20 億円の増加となりました。

続いて、不動産開発事業では、アスコット社を 4 月より連結したことに加えて、収益不動産事業が順調に推移したことにより、69 億円の増加となりました。

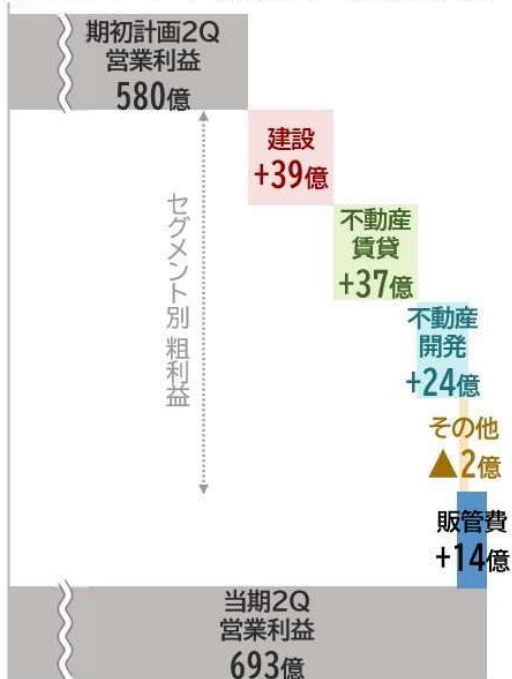
その他の事業では、ガス供給事業や介護・保育事業が堅調に推移したことにより、6 億円増加となりました。

最後に販管費ですが、今期も実施したベースアップの影響や、従業員への株式付与、さらにはアスコット社の連結の影響により、86 億円の増加となりました。

損益（営業利益増減要因）〈期初計画比〉

6

■ セグメント別損益（期初計画比:増減）



DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

■ 主な増減要因 〈期初計画比+113億円〉

建設 +39億	・ 完成工事高等の増加 (2,500億円→2,640億円)	+39.8億円
不動産 賃貸 +37億	・ 一括借上事業 ・ 電力事業 ・ 原状回復・営繕工事 ・ その他（保証事業等）	+23.7億円 +3.7億円 +4.5億円 +4.3億円
不動産 開発 +24億	・ 収益不動産事業 （買取再販・開発販売） ・ アスコット社連結影響	+26.0億円 △2.4億円
その他 ▲2億	・ 海外ホテル(マレーシア)	△2.2億円
販管費 +14億	・ 人件費 ・ 広告宣伝費 ・ その他経費	+6.9億円 +2.1億円 +5.4億円

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

6 ページをご覧ください。次に期初計画との対比です。

今期の営業利益 693 億円は、期初計画に対して 113 億円上振れでの着地となりました。セグメント別にご説明いたします。

まず、建設事業で 39 億円の増加となりました。これは下期に完成予定であった案件の一部を上期に前倒しして引き渡ししたことによって、工事ボリュームが増加したことが主な要因です。

不動産賃貸の 37 億円の増加は、計画よりも入居率が安定的に推移したことなどによるものでございます。

不動産開発事業の 24 億円の増加は、販売ボリューム、そして利益率の確保を両立できたことなどによるものです。

その他の事業の 2 億円減少は、米国の関税に伴う経済への影響により、マレーシアホテルの稼働率が低下したことなどによるものです。

販管費 14 億円の減少は、残業時間の抑制などによる人件費の減少、受注が計画を下回ったことによるインセンティブの減少などによるものでございます。

セグメント別損益（建設①）

7

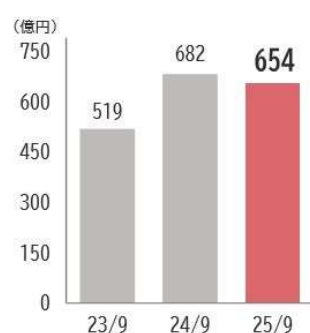
（単位：億円）

	2024/9	2025/9	（前期比）
完成工事高	2,673	2,640	（△1.2%）
完成工事総利益	682	654	（△4.0%）
営業利益	262	199	（△24.0%）

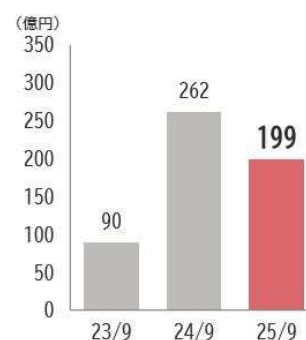
■ 完成工事高・進行基準



■ 完成工事総利益



■ 営業利益



DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

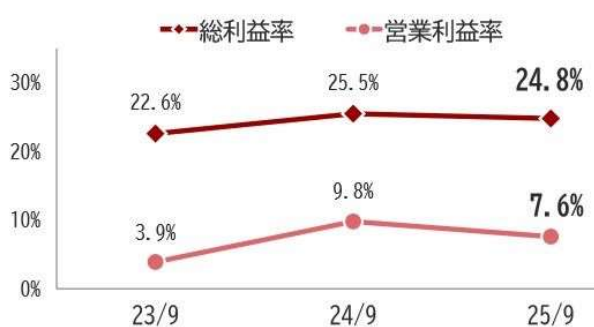
7 ページをご覧ください。建設セグメントは、完成工事高が前期比 1.2%減少の 2,640 億円、営業利益は完成工事総粗利益の低下、およびベースアップによる人件費増加などにより、前期比 24.0% 減少の 199 億円となりました。

セグメント別損益（建設②）

8

	2024/9	2025/9	(前期比)
総利益率	25.5%	24.8%	(△0.7p)
営業利益率	9.8%	7.6%	(△2.2p)

■ 総利益率・営業利益率



前期差異△0.7p 内訳

- ① 価格改定による効果 +2.1p
(前期比55億程度のプラス効果)
- ② 労務費 △1.0p
(電気・給排水設備工等の単価上昇)
- ③ 資材費 △1.2p
(生コン、構造用パネル、鋼材等の単価上昇)
- ④ 為替・輸入資材 △0.6p
(輸入資材価格の低下)

8 ページをご覧ください。総利益率は、前期との差で 0.7 ポイント減少し、24.8%となりました。総利益率低下の内訳は資料に記載のとおりですが、価格改定による効果がプラスで出ている一方で、継続して電気設備工あるいは給排水の設備工など、労務費の上昇や、生コンやパネルなどの資材費上昇の影響がありました。

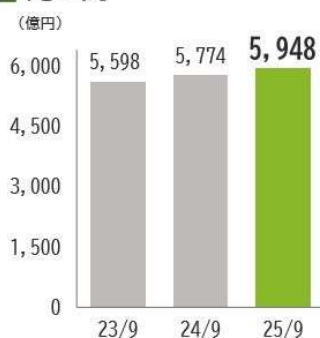
セグメント別損益（不動産賃貸①）

9

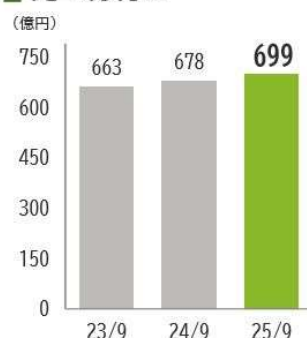
（単位：億円）

	2024/9	2025/9	（前期比）
売上高	5,774	5,948	（+3.0%）
売上総利益	678	699	（+3.1%）
営業利益	432	456	（+5.5%）

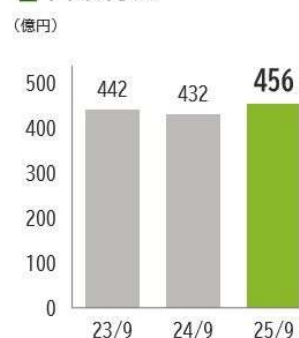
■ 売上高



■ 売上総利益



■ 営業利益



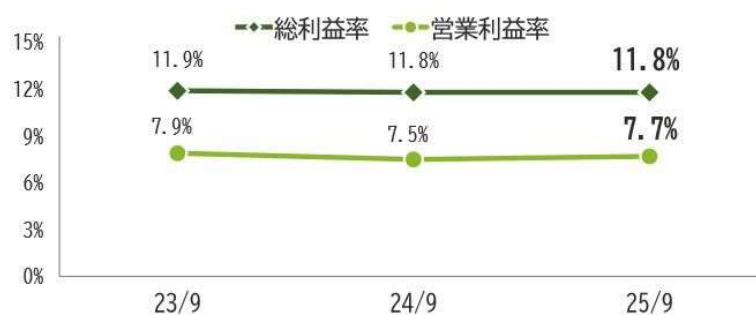
9 ページをご覧ください。不動産賃貸セグメントは、売上高が前期比 3.0%増加の 5,948 億円、営業利益は前期比 5.5%増加の 456 億円となりました。

セグメント別損益（不動産賃貸②）

10

	2024/9	2025/9	(前期比)
総利益率	11.8%	11.8%	(±0.0p)
営業利益率	7.5%	7.7%	(+0.2p)

■ 総利益率・営業利益率



10 ページをご覧ください。総利益率につきましては、前年同水準の 11.8%、営業利益率は 0.2 ポイント増加の 7.7%となりました。

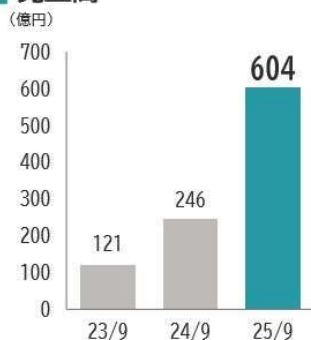
セグメント別損益（不動産開発①）

11

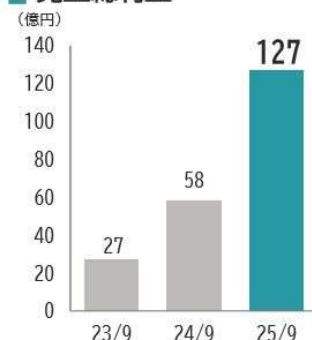
（単位：億円）

	2024/9	2025/9	（前期比）
売上高	246	604	（+144.8%）
売上総利益	58	127	（+119.2%）
営業利益	28	59	（+105.1%）

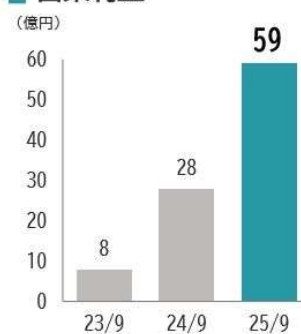
■ 売上高



■ 売上総利益



■ 営業利益



DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

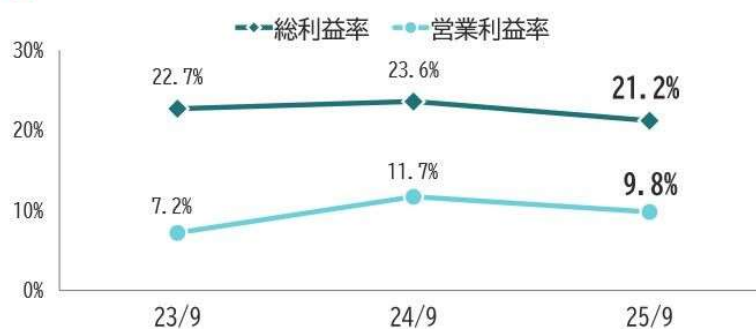
11 ページをご覧ください。不動産開発セグメントは、アスコットのグループインと開発事業の進展により、前期比で大きく増加し、売上高が前期比 144.8%増加の 604 億円、営業利益は前期比 105.1%増加の 59 億円となりました。

セグメント別損益（不動産開発②）

12

	2024/9	2025/9	(前期比)
総利益率	23.6%	21.2%	(△2.4p)
営業利益率	11.7%	9.8%	(△1.9p)

■ 総利益率・営業利益率



12 ページをご覧ください。不動産開発セグメントの総利益率は、前期比 2.4 ポイント減少し、21.2%となりました。また、営業利益率は 1.9 ポイント減少し、9.8%となりました。

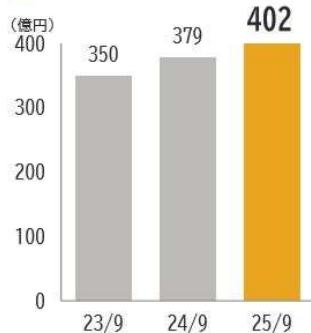
セグメント別損益（その他）

13

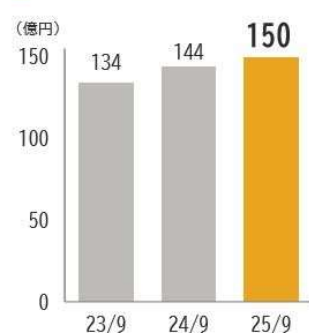
（単位：億円）

	2024/9	2025/9	（前期比）
売上高	379	402	（+6.2%）
売上総利益	144	150	（+4.5%）
営業利益	64	63	（△2.2%）

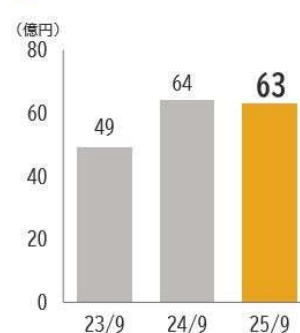
■ 売上高



■ 売上総利益



■ 営業利益



DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

13 ページをご覧ください。その他の事業は、ガス供給事業における延べ稼働メーター数が増加した一方、人件費などの販管費が増加したことにより、売上高は前期比 6.2%増加の 402 億円、営業利益は前期比 2.2%減少の 63 億円となりました。

損益（販管費）

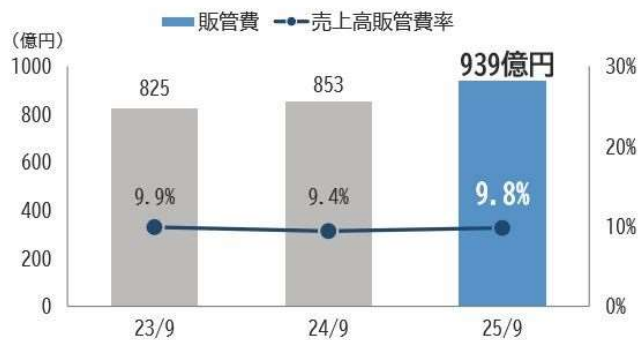
14

（単位：億円）

	2024/9	2025/9	（前期比）
販管費	853	939	（+10.1%）
売上高販管費率	9.4%	9.8%	〔+0.4p〕

〔 〕：前年同期との差

■ 販管費・売上高販管費率



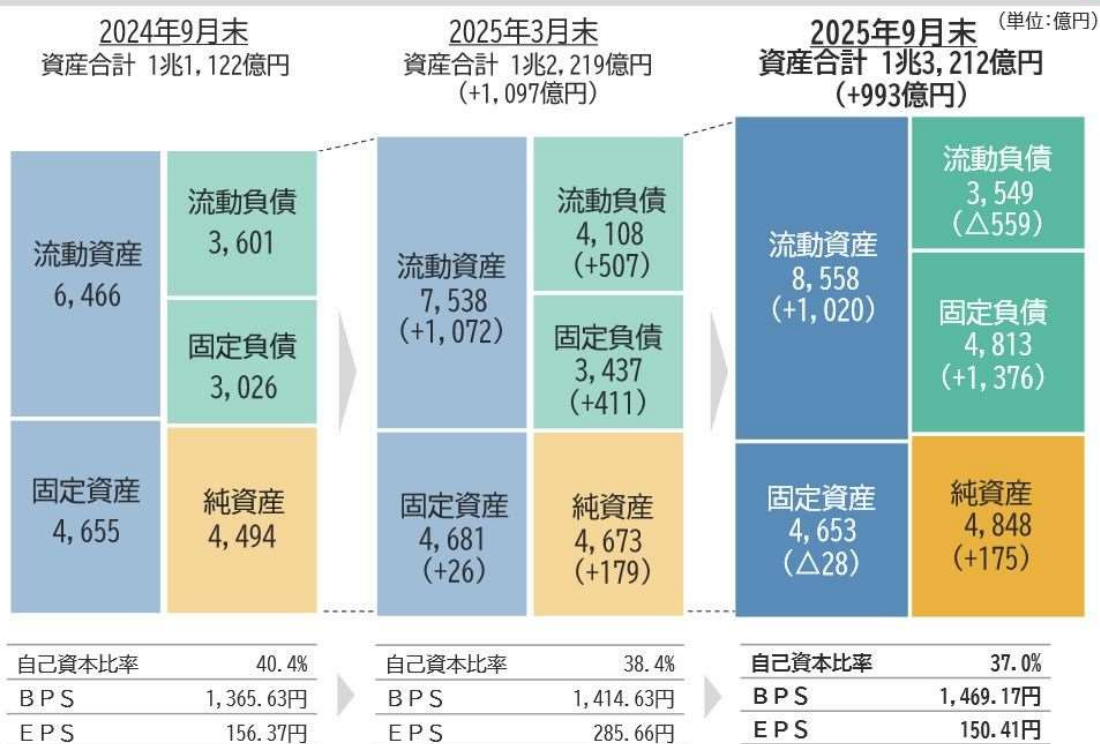
前期差異+86億円 内訳

- ① 人件費 +26.3億円
(ハースアップ、従業員株式付与等の増加)
- ② 情報処理費 +4.1億円
- ③ 広告宣伝費 +2.1億円
- ④ 募集訓練費 +1.5億円
- ⑤ アスコット社 +20.1億円
(当期より連結)
- ⑥ その他 +31.9億円
(控除不能消費税、減価償却費等)

14 ページをご覧ください。販管費につきましては、前期比 86 億円増加の 939 億円となりました。また、売上高販管費率は、前期比 0.4 ポイント増加の 9.8%となりました。

財務状況（連結BS）

15



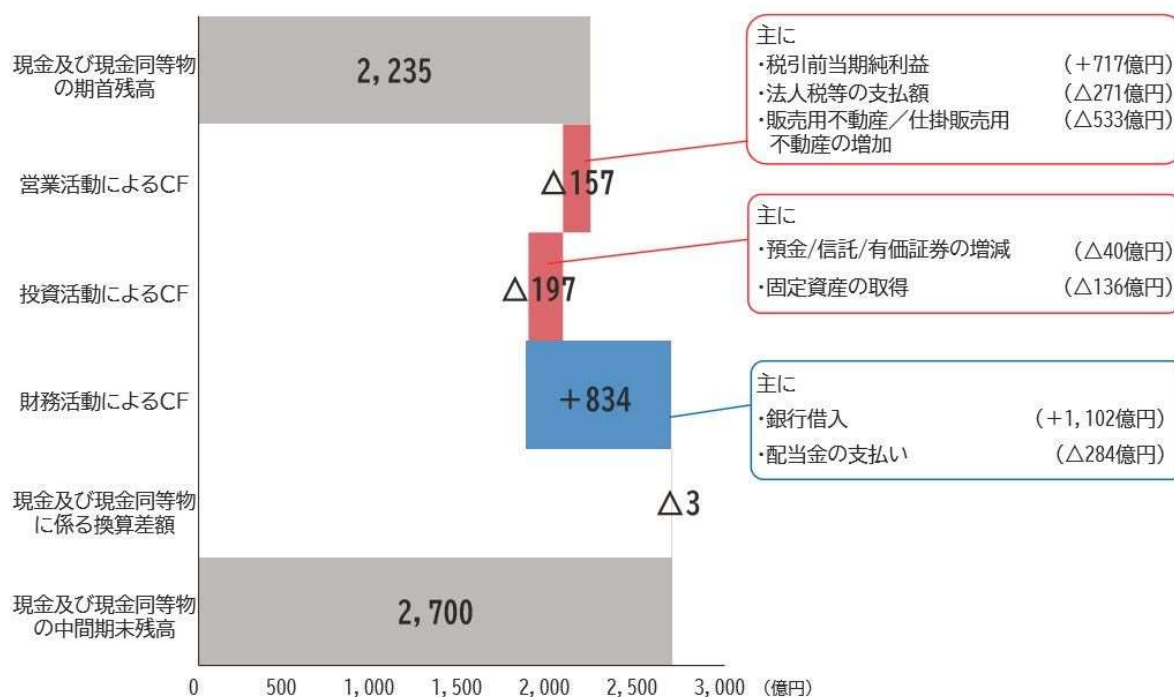
※前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定して、BPS・EPSを算定しています。

DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

※BPS：1株当たり純資産
※EPS：1株当たり四半期(当期)純利益

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

15 ページをご覧ください。財務状況につきましては、不動産開発事業の進展に伴いまして、販売用不動産を中心とした流動資産が増加している一方で、その取得に対応する形で借入金などの負債も増加しております。なお、販売用不動産関連の資産については、後ほどご説明をいたします。



DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

16 ページをご覧ください。連結キャッシュフローの増減理由は資料の記載のとおりですが、9 月に借換え 435 億円を含む、総額で 1,400 億円の借り入れを行い、その結果財務キャッシュフローが 834 億円のプラスとなりました。借入目的としましては、先ほど申し上げましたとおり、主に不動産開発事業の拡大に伴う資金確保のためです。

第 2 四半期決算の状況につきましては以上です。引き続き竹内のほうから説明をさせていただきます。

受注高 2,739億円（前期比 $\Delta 5.3\%$ ）

受注工事残高 7,918億円（前期比 $\pm 0.0\%$ ）

■ 受注高

（億円）



DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

■ 受注工事残高

（億円）

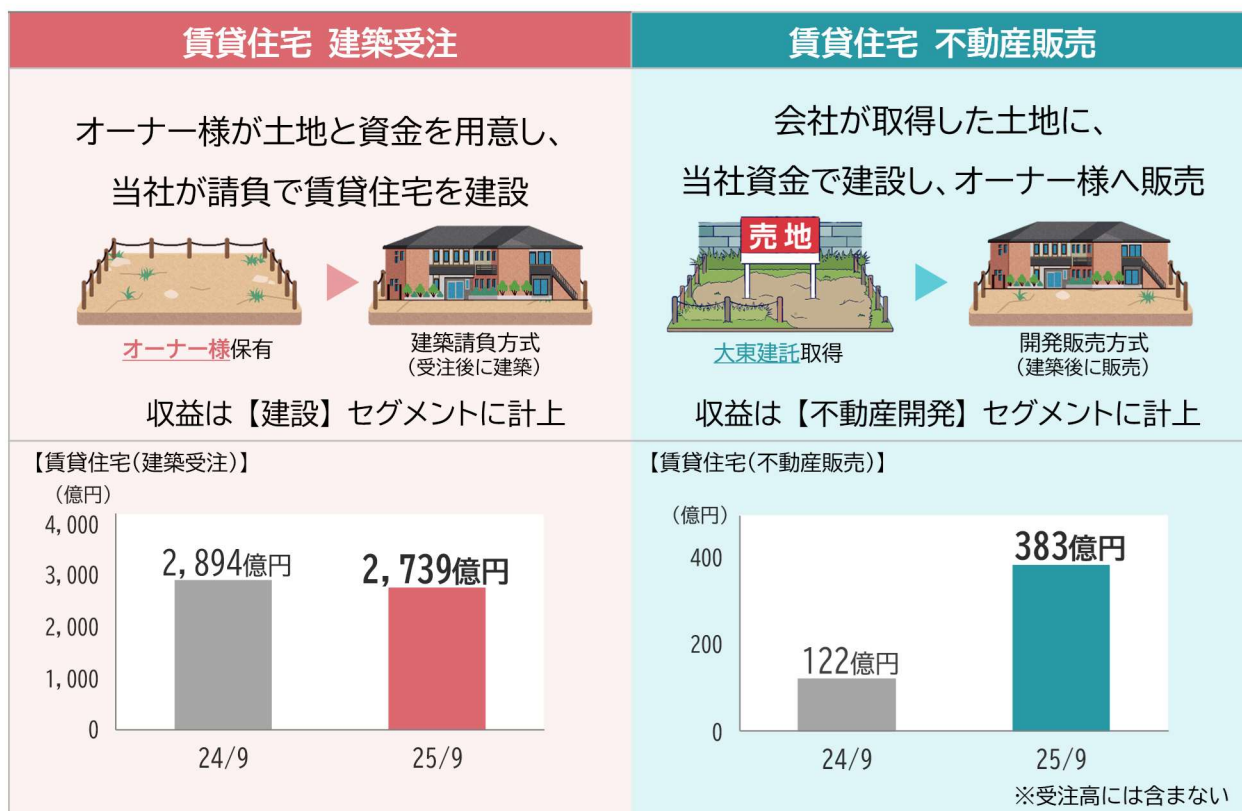


© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

竹内：本日、お忙しいところ、説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。それでは、主要指標の実績は私のほうからご説明をさせていただきます。

では 18 ページをご覧ください。初めに当期の受注高でございますが、前期比 5.3%減少の 2,739 億円となりました。受注工事残高については、前期と同水準の 7,918 億円となりました。

今年の 1 月より実施してまいりました販売エリアの縮小などの影響により、前年対比でマイナスが続いておりましたが、8 月ごろからようやく前年並みの受注は確保できておりますので、通期の計画 6,200 億円の目標を変えずに、達成に向けて邁進をしてまいります。



DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

続きまして 19 ページをご覧ください。ここでは、弊社グループにおける賃貸住宅の新規供給状況について補足的にご説明をいたします。

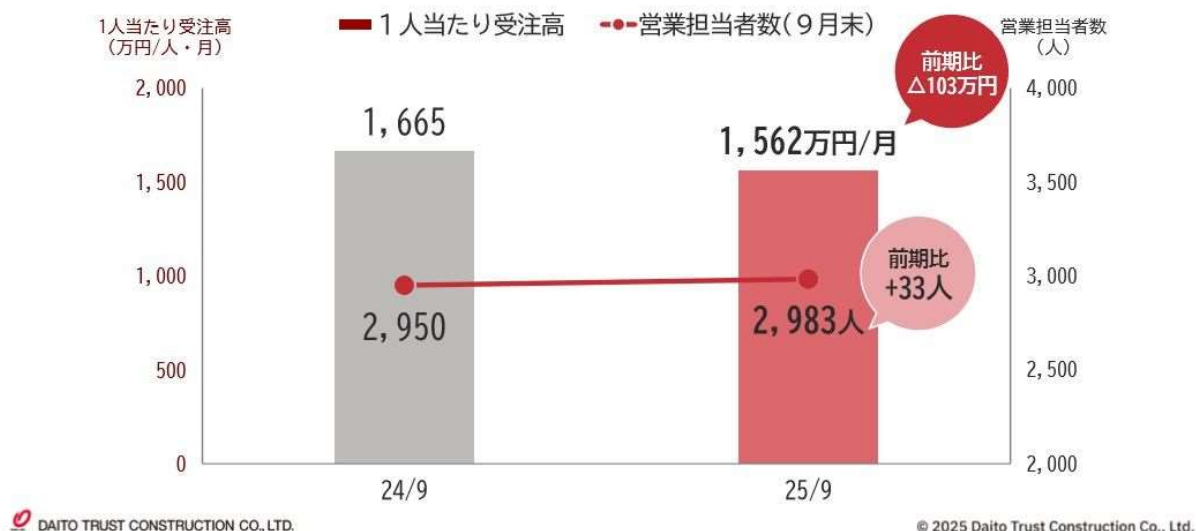
左側が、先ほどもご説明をいたしました、建築受注による賃貸住宅の受注金額でございます。そして右側は、中期計画において、これから注力をしている不動産開発を通じた賃貸住宅の販売額を記載させていただいております。

不動産開発では、当社費用で土地を購入し、建築した後にオーナー様へ販売するため、左側の受注額には計上しておりませんが、このような形で賃貸住宅の供給も増加しており、今後も様々な形で、良質な賃貸住宅を提供していきたいというふうに考えております。

1人当たり受注高 1,562万円/月（前期比 △103万円）

営業担当者数〈9月末〉 2,983人（前期比 +33人）

■ 受注効率（1人当たり受注高・営業担当者数）

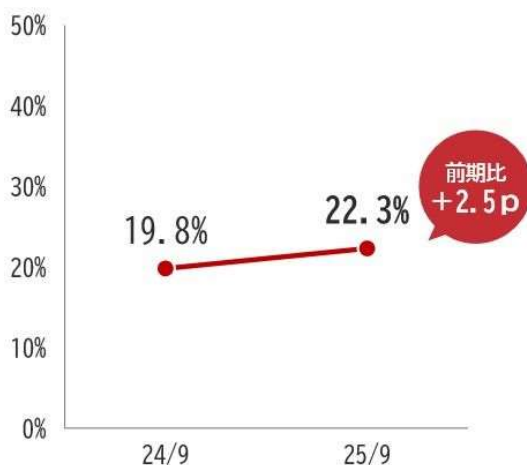


続きまして、20 ページをご覧ください。営業担当者 1 人当たりの受注高は、前期比 103 万円減少の 1,562 万円となりました。また、9 月末の営業担当者は、前期比 33 名増加の 2,983 名となりました。引き続き、3,000 名体制に向けて採用活動を行ってまいります。

中層比率 22.3%（前期比 +2.5p）

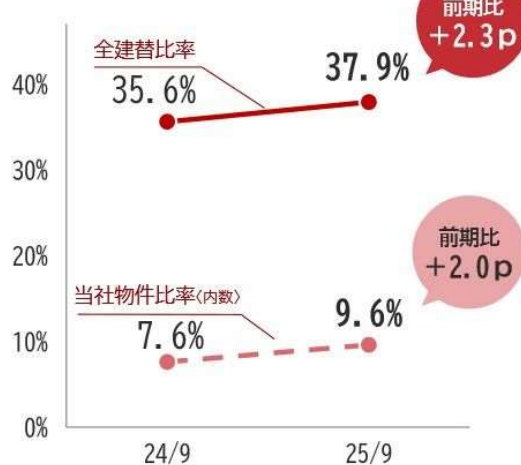
建替比率 37.9%（前期比 +2.3p）

■ 中層比率※1



※1 中層比率=3階以上の賃貸建物受注件数/全受注件数

■ 建替比率※2



※2 全建替比率=建替受注件数/全受注件数
当社物件建替比率=当社既存物件の建替受注件数/全受注件数

DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

21 ページをご覧ください。中層比率でございますが、営業エリアの中心部へのシフト、そして法人契約の増加により、物件が大型化している、そのような影響もありまして、前期比 2.5 ポイント上昇いたしまして、22.3%となりました。また建替比率は、前期比 2.3 ポイント上昇し、37.9%となりました。

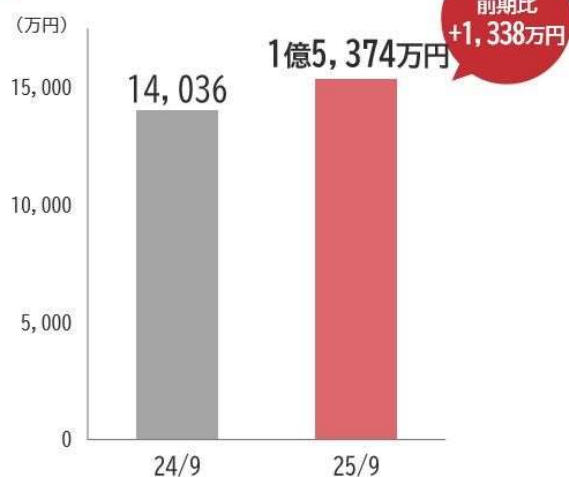
受注関連（受注単価・キャンセル）

22

受注単価 1億5,374万円（前期比 +1,338万円）

キャンセル率 12.9%（前期比 △0.5p）

■ 受注単価※1



※1 受注単価=新規受注金額/受注件数

■ キャンセル額・キャンセル率※2

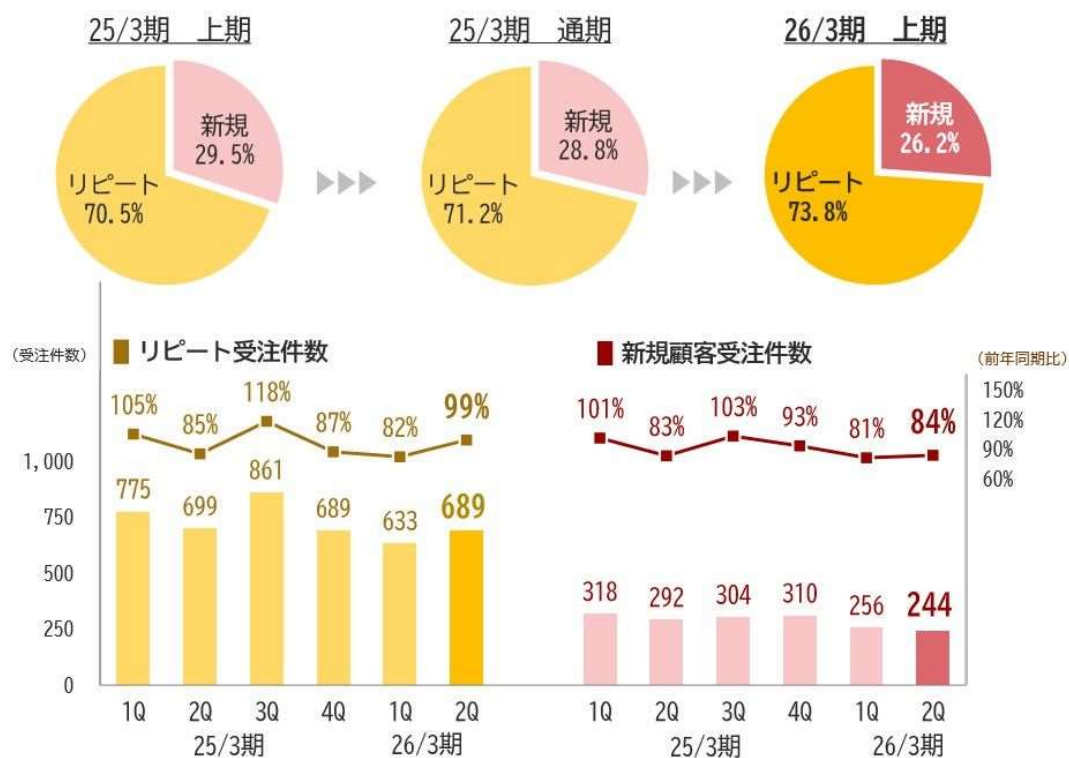


※2 キャンセル率=キャンセル金額/新規受注金額
受注額=新規受注金額-キャンセル金額

DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

続きまして、22 ページをご覧ください。次に受注単価とキャンセル率の状況でございます。左側のグラフが受注単価の推移で、価格改定によりまして、前期比 1,338 万円高の 1 億 5,374 万円となりました。右側で示させていただいておりますのがキャンセル率でございます。前期比で 0.5 ポイント改善いたしまして、12.9%、43 億円の減少となりました。



DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

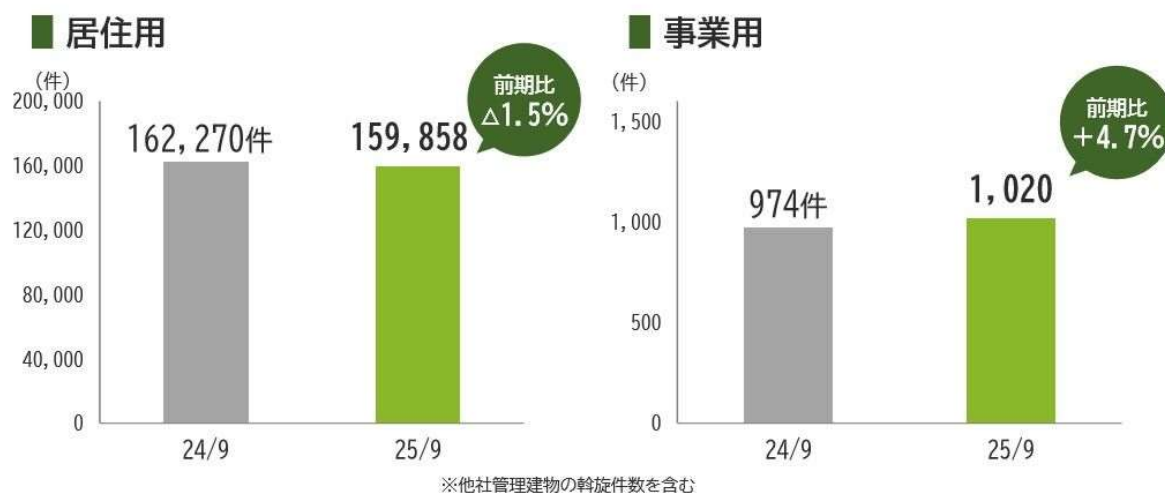
© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

続いて 23 ページをご覧ください。当期のリピート顧客の割合は、前期比 3.3 ポイント増加の 73.8%となりました。

入居斡旋関連（入居斡旋件数）

24

入居者斡旋件数	160,878件（前期比 △1.4%）
居住用	159,858件（前期比 △1.5%）
事業用	1,020件（前期比 +4.7%）



DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

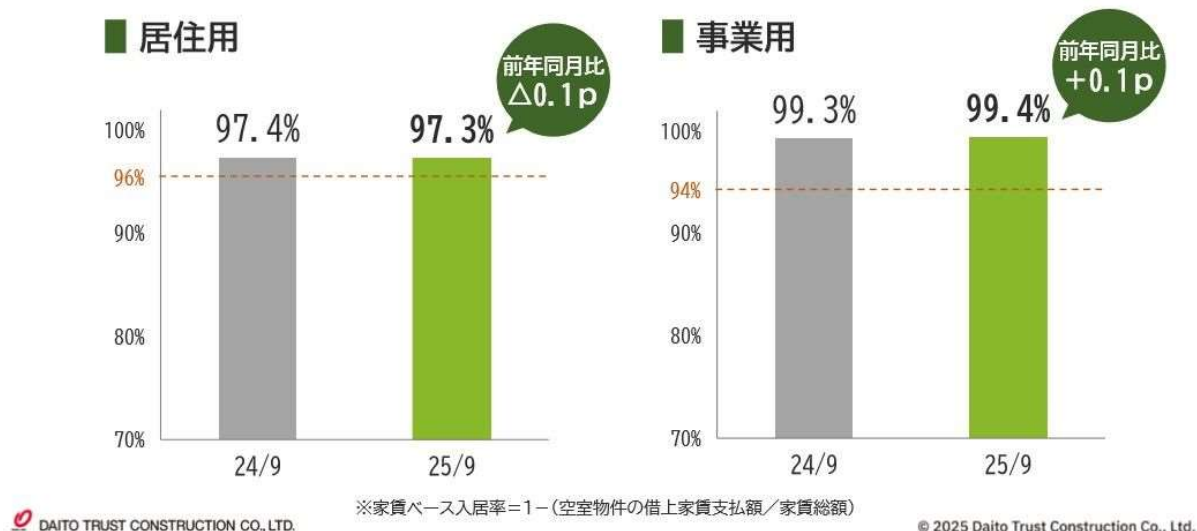
© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

続いて 24 ページをご覧ください。入居者の斡旋件数でございますが、前期比 1.4 ポイント減少の 16 万 878 件となりました。

健全水準（居住用：96%・事業用：94%）を継続して維持

居住用入居率 97.3%（前年同月比 △0.1p）

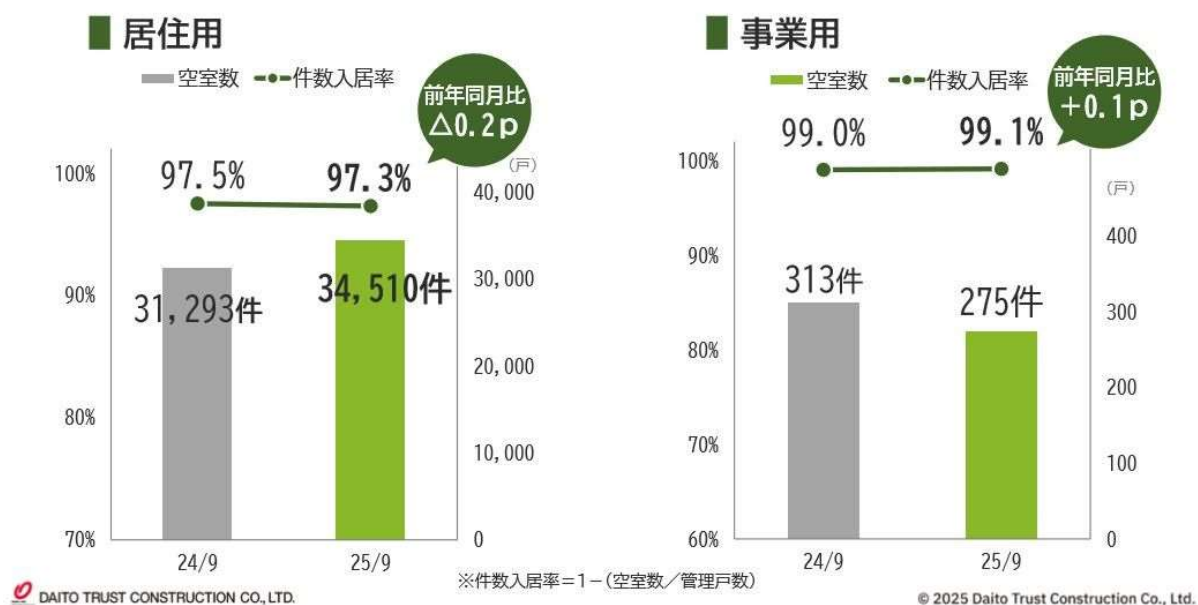
事業用入居率 99.4%（前年同月比 +0.1p）



続いて 25 ページをご覧ください。家賃ベースの入居率でございますが、居住用で前年同月比 0.1 ポイント減少の 97.3%。引き続き、高い入居率を維持させていただいております。

居住用件数入居率 97.3%（前年同月比 △0.2p）

事業用件数入居率 99.1%（前年同月比 +0.1p）

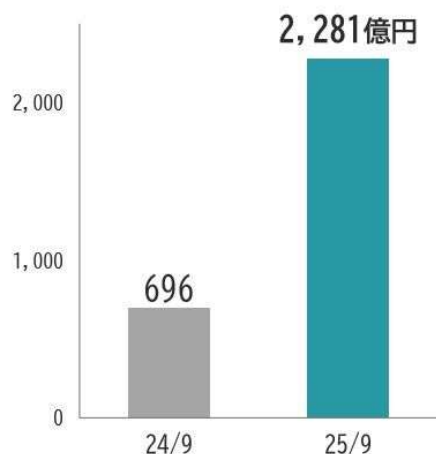


続きまして、26 ページをご覧ください。件数入居率は、前年同月比 0.2 ポイント減少の 97.3% となりました。

不動産投資残高 2,281億円（前期比 +1,585億円）

■ 不動産投資残高

（億円）



	24/9 BS残高	25/9 BS残高	増減額	増減比
レジデンス	579億円	1,650億円	+1,071億円	285%
物流施設	82億円	207億円	+125億円	252%
ホテル	—	300億円	+300億円	—
その他	35億円	124億円	+89億円	354%
合計	696億円	2,281億円	+1,585億円	328%

※25/9 BS残高には2025年3月にグループインしたアスコット社879億円を含む

27 ページをご覧ください。不動産の投資残高は、前期比で 1,585 億円増加の 2,281 億円となりました。適切な販売用不動産を確保することで、更なる不動産開発の収益拡大に努めてまいります。

通期計画に変更ありません

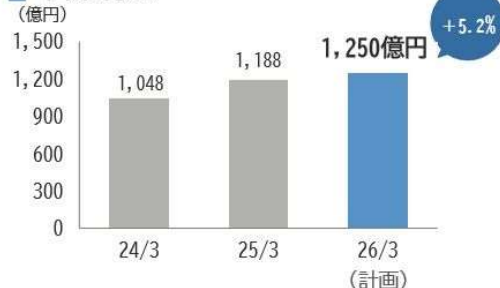
（業績予想の修正が必要となった場合には速やかに開示します）

●：前期比

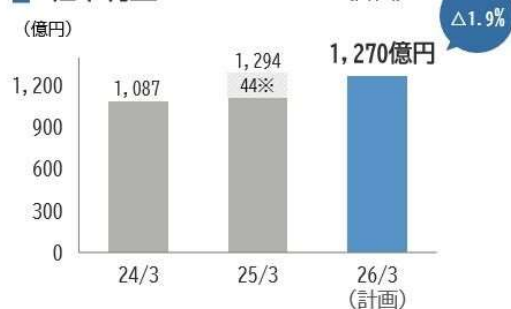
売上高



営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



※保有株式の売却、為替差益などによる利益

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

続きまして、当期の見通しについてご説明をさせていただきます。29 ページをご覧ください。通期計画につきまして、現時点での変更はございません。なお、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示をさせていただきます。

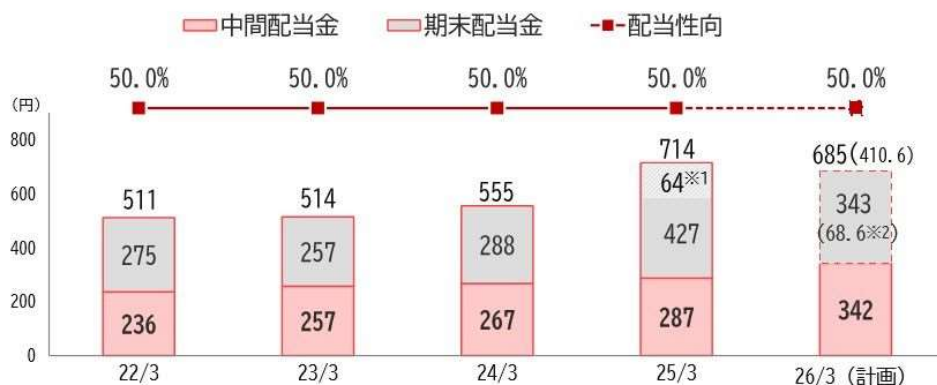
2026年3月期 株主還元（配当金）

31

中間配当 **342**円/株 （前期比 +55円 / 計画比 ±0円）

期末配当<計画> **343**円/株 （株式5分割後では1株あたり68.6円）

≫ 配当性向 **50%**



※1 株式売却益、為替差益等の特殊要因による配当64円含む

※2 2025年10月1日株式分割後の1株当たり配当金

DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

続きまして、株主還元についてご説明をいたします。31 ページをご覧ください。当期の中間配当は、株式分割前の株数を基準とするため、計画通り、前期比 55 円増配の、1 株当たり 342 円を、11 月 21 日にお支払いをさせていただきます。期末の配当につきましては、株式分割前ベースで 343 円、通期では 685 円となります。

■ 中期経営計画(2024-2026)3つの柱

1 人的資本経営の推進【働きやすさ】×【働きがい】の向上 → 社員の力の最大化

▪従業員への株式付与 ▪社会課題への取組み ▪誰もが活躍できる環境作り

2 強固なコア事業の確立

▪大きな社会変化への対応 ▪建築施工量の維持拡大 ▪ストックからフローの好循環

3 本中計における注力分野への対応

▪不動産開発事業の拡大 ▪海外事業の展開 ▪大東建託グループらしいまちづくり

■ 2026年度目標

売上

2兆円

営業利益

1,400億円

ROE

20%

最後に、中期の経営計画の進捗状況、またその他のトピックスについてご説明をさせていただきます。33ページをご覧ください。昨年度から開始をいたしました中期の計画では、人的資本経営の推進、2つ目に強固なコア事業の確立、3つ目に注力分野への対応と、この3つを柱として掲げ、そして最終年度の目標といたしまして、売上高2兆円、営業利益1,400億円、ROE20%を設定させていただきました。

次ページ以降につきまして、それぞれの取り組み状況についてご説明をさせていただきます。

1 人的資本経営の推進 【働きやすさ】×【働きがい】の向上 → 社員の力 最大化



34 ページをご覧ください。まず人的資本経営の推進についてでございます。

弊社では、社員の働きやすさと働きがいの、この双方を高め、社員一人一人の力を最大化する取り組みを進めております。上期は、働き続けられる環境づくりの一環といたしまして、万が一がんと診断をされたとき、一時金といたしまして 100 万円を支給する、このような制度を新設させていただきました。その他、熱中症対策として、現場の工事監督に冷却ベストを貸与するなど、現場の安全と健康に配慮した取り組みを実施いたしました。

またパーパス経営の推進として、日々業務の中でパーパスに基づく行動、これを体現している社員を表彰するなど、社員のやりがいを高める取り組みも行っております。

さらに社員の資産形成支援といたしまして、DC・新 NISA の奨励金支給を導入いたしました。

これらの取り組みの結果、従業員エンゲージメントにおきましては、平均の偏差値 50 のところを、過去最高の 65.6 まで上昇いたしました。今後も全社員が力を発揮できる、そのような環境を整え、企業価値向上に努めていきたいというふうに考えております。

2 強固なコア事業の確立



続きまして 35 ページをご覧ください。2 つ目の強固なコア事業の確立でございます。賃貸事業の 3 大要素であります建築費と家賃、金利、いずれも上昇傾向でございます。このような事業環境の中、インフレによる労務費、そして資材費の高騰に対応するため、今年の 7 月に 2%、さらに来年の 1 月に、追加で 3% の価格改定を実施する予定でございます。また、今年 1 月から営業エリアをシフトし、家賃の上昇が見込めるエリアでの受注が拡大をいたしました。

結果として、三大都市圏での受注が 4.2 ポイント上昇いたしました。また、築年数を経た建物の増加に伴い、建て替えの契約比率、これが 2.3 ポイント上昇いたしました。引き続き事業環境の変化に対応した販売活動を実施して、受注を獲得してまいります。

3 本中計における注力分野への対応 【不動産開発事業の拡大】



続きまして 36 ページをご覧ください。3 つ目は、本中期経営計画における注力分野への対応でございます。ここでも 3 点、重点的に取り組んでおります。

まず 1 点目は、不動産開発の拡大でございます。不動産開発事業では、前期比で 2.4 倍の 604 億まで拡大いたしました。人員増加率を大きく上回る売上成長になっております。1 人当たりの収益性が大幅に向上しております。バランスシート上にも、投資用のマンションでは、また開発販売などは順調に積み上がってきており、今後も売上、利益の拡大を見込んでおります。

3 本中計における注力分野への対応 【海外事業の展開】

米国での買取・再販事業はおおむね計画通り進捗(3棟11億売却済)



© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

続いて、37 ページをご覧ください。2 点目は、海外事業の展開でございます。カリフォルニア州ロサンゼルスで、3 棟を 11 億円で売却をし、今期新しくまた、3 棟 12 戸の物件を取得いたしました。今後もさらに現地の企業と連携をしながら、アメリカでのさらなる事業拡大を図ってまいります。

3 本中計における注力分野への対応 【大東建託グループらしいまちづくり】

住宅型有料老人ホーム第1号施設オープン



今後の開設予定

15施設

60施設

2025年度

2026年度

DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

自治体とまちづくりプロジェクト

環境・防災・異業種コラボ etc.
2028年度OPEN予定



※富山県高岡市など
他多数のプロジェクト進行中

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

続きまして、38 ページをご覧ください。中期の経営計画の取り組みの最後は、大東建託グループらしいまちづくりです。このまちづくりの一環といたしまして、高齢化社会の進展という、こういう社会課題解決のために、高齢者のケア施設の展開に力を入れております。

9月の1日に住宅型有料老人ホーム第1号施設、ソエルガーデン豊橋が、愛知県豊橋にオープンいたしました。2026年度には新たに60施設の開設を予定しております。その他、以前少しご紹介をさせていただきました、千葉 ZEH タウンの開発など、それぞれ自治体や異業種と連携をしながら、まちづくりプロジェクトを進めております。



調布のCLT集合住宅 (ForterbIII)

【物件概要】

- 環境・耐火・耐震性能に優れた**CLT賃貸住宅**
- 「1時間準耐火構造」により**高い安全性**を確保
- 共用部・室内にCLTの**木質感**を活かした**デザイン**



「調布のCLT集合住宅」外観

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

続いて、39 ページをご覧ください。最後にその他のトピックス、3 つご紹介させていただきます。

1 つ目は、弊社グループの 3 物件が、おかげさまで 2025 年度のグッドデザイン賞を受賞させていただきました。1 件目は、大東建託が手掛けさせていただきました、調布の CLT 住宅でございます。大東建託の商品建物としては、初めてのグッドデザイン賞の受賞になります。弊社の CLT 工法、この普及に向けた継続的な取り組みや、この木質感を生かした優れたデザイン力が評価をされました。

その他トピックス

大東建託グループ3物件 グッドデザイン賞受賞



GOOD DESIGN AWARD
2025年度受賞



ASCOT CORP.

ASTILE広尾



「ASTILE広尾」外観

【物件概要】

- 容積の最大限確保と、周辺環境との調和を両立
- 全住戸角部屋で、空や緑を感じられる設計
- 採光や通風、眺望といった住環境面にも配慮



「ASTILE広尾」内観

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.



DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

続いて 40 ページをご覧ください。2 件目は、アスコット社が手掛けました、ASTILE 広尾でございます。全 19 戸の賃貸住宅で、容積を最大限に活かしながら、街並みと調和する外観と、アスコットならではの高いデザイン性が評価されました。



DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

その他トピックス

大東建託グループ3物件 グッドデザイン賞受賞



AUSPICE福岡天神

【物件概要】

- 日射遮蔽ルーバーを備えた中規模オフィスビル
- 環境への配慮とデザイン表現の両立
- 「DBJ Green Building認証※」4つ星取得

※「環境・社会への配慮」がなされた不動産の評価を通じ、事業者と金融機関・投資家の架け橋となることを目的に、日本政策投資銀行（DBJ）が創設した環境不動産認証制度。AUSPICE福岡天神は2024年に当該認証を取得。



「AUSPICE福岡天神」外観

DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

続いて 41 ページをご覧ください。3 件目は、AUSPICE 福岡天神でございます。こちらもアスコットが手掛けさせていただいております。通算 19 件目の受賞になります。10 階建ての中規模なオフィスビルで、中規模オフィスならではの工夫によって、快適性と環境性能を高めた点が評価されました。

その他トピックス

住友林業×大東建託 業務提携プロジェクト

国産材の安定調達に向け、**業務提携プロジェクト推進委員会 発足**
(委員会を年2回、分科会を月1回ペースで実施)



写真左から:大東建託社長 竹内、住友林業社長 光吉様



両社で林業関係団体訪問(福島県いわき市)

42 ページをご覧ください。2 つ目のトピックスでございますが、住友林業様と 5 月に推進委員会を発足させていただき、国産材事業や海外事業を含めて、各分野で協業計画の検討を進めさせていただいております。国産材を活用するため、2026 年の 3 月には、いわき市で木材の加工工場の稼働を予定しております。現地の林業団体、そして行政の皆様と意見交換を重ねながら、循環型林業と脱炭素社会の実現、地域林業の活性化を目指してまいります。

その他トピックス

一戸フォレストパワー営業開始（RE100達成へ）

全国2か所でバイオマス発電所を営業運転開始

再エネ導入率は100%に達する見込み

2025年4月 営業運転開始



一戸バイオマス発電所
(岩手県一戸町)



朝来バイオマス発電所
(兵庫県朝来市)

2024年4月 営業運転開始



DAITO TRUST CONSTRUCTION CO., LTD.

© 2025 Daito Trust Construction Co., Ltd.

43 ページをご覧ください。最後に、バイオマス発電事業についてでございます。弊社では、2040年までに事業活動で使用する電力を、100%再生可能エネルギーで賄うことを目標に掲げております。

その取組みの一環といたしまして、岩手県の一戸町において、一戸フォレストパワーの営業運転を開始いたしました。既に稼働しております兵庫県の朝来市の朝来バイオマス発電と合わせまして、弊社グループの再生可能エネルギーの導入率は100%に到達する見込みでございます。今後、脱炭素社会の実現に向けた取組みを一層加速してまいりたいと、そのように考えております。

以上、ご説明をさせていただきました。

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、大東建託株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。